

No. 48

添付-11 p.2 ②鉄骨造 (カスケード棟等)	
誤	正
<p>②鉄骨造 (カスケード棟等)</p> <p>保有水平耐力の算定は、筋かいの水平耐力と架構の水平耐力を加え合わせたものとする。</p> <p>大ばり及び柱の曲げ耐力は全塑性モーメントとする。強軸まわりに曲げを受けるH形断面及び箱形断面の全塑性モーメントは、次式により算定する。</p> <p>$N/N_{\gamma} \leq Aw/A$ のとき</p> $M_{PN}/M_P = 1 - A^2 / ((4Af + Aw)Aw) \cdot (N/N_{\gamma})^2$ <p>$N/N_{\gamma} > Aw/A$ のとき</p> $M_{PN}/M_P = 2A / (4Af + Aw) \cdot (1 - N/N_{\gamma})$ <p>N : 柱軸力 (= $N_s + N_Q$ N_s は鉛直荷重による柱軸力、N_Q は保有水平耐力算定時におけるはりせん断力及び筋かい力による付加軸力を示す。)</p> <p>N_{γ} : 柱の降伏軸力 (= FA F は鋼材の基準強度を示す。)</p> <p>A : 断面積</p> <p>M_{PN} : 全塑性モーメント</p> <p>M_P : 軸力がない場合の全塑性モーメント (= FZ_p Z_p は塑性断面係数を示す。)</p> <p>Af : 片側フランジの断面積</p> <div style="border: 1px solid red; width: 100px; height: 15px; margin-top: 5px;"></div>	<p>②鉄骨造 (カスケード棟等)</p> <p>保有水平耐力の算定は、筋かいの水平耐力と架構の水平耐力を加え合わせたものとする。</p> <p>大ばり及び柱の曲げ耐力は全塑性モーメントとする。強軸まわりに曲げを受けるH形断面及び箱形断面の全塑性モーメントは、次式により算定する。</p> <p>$N/N_{\gamma} \leq Aw/A$ のとき</p> $M_{PN}/M_P = 1 - A^2 / ((4Af + Aw)Aw) \cdot (N/N_{\gamma})^2$ <p>$N/N_{\gamma} > Aw/A$ のとき</p> $M_{PN}/M_P = 2A / (4Af + Aw) \cdot (1 - N/N_{\gamma})$ <p>N : 柱軸力 (= $N_s + N_Q$ N_s は鉛直荷重による柱軸力、N_Q は保有水平耐力算定時におけるはりせん断力及び筋かい力による付加軸力を示す。)</p> <p>N_{γ} : 柱の降伏軸力 (= FA F は鋼材の基準強度を示す。)</p> <p>A : 断面積</p> <p>M_{PN} : 全塑性モーメント</p> <p>M_P : 軸力がない場合の全塑性モーメント (= FZ_p Z_p は塑性断面係数を示す。)</p> <p>Af : 片側フランジの断面積</p> <div style="border: 1px solid red; width: 100px; height: 15px; margin-top: 5px;"></div> <p>Aw : ウェブ断面積</p>

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (29/37)

No. 49

添付-12 p.4 3. 建屋及び設備・機器の損傷による影響評価	
誤	正
<p>原則的に設備・機器は、剛構造となることを基本とし、第1類の機器であれば、約450Galの設計地震力が付加されても転倒等は起きない設計としており、均質槽等の重要な機器は、1.3~3.8倍の地震力に耐える実力を有している。</p>	<p>原則的に設備・機器は、剛構造となることを基本とし、第1類の機器であれば、約450Galの設計地震力が付加されても転倒等は起きない設計としており、均質槽等の重要な機器は、1.3~3.9倍の地震力に耐える実力を有している。</p>

No. 50

添付-12 p.6 ②評価結果																																																																																																																																	
誤	正																																																																																																																																
<p>②評価結果 ①の評価式により、ウラン濃縮工場内のUF₆処理設備及び均質・ブレンディング設備の各槽の接続管部からの漏えい速度を計算した結果は、下表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>T</th> <th>ρ</th> <th>D²</th> <th>PUF₆</th> <th>1/Pt</th> <th>1/L</th> <th>G</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発生槽接続配管</td> <td>326.15</td> <td>0.000236</td> <td>28</td> <td>623.8</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>1.20E-04</td> </tr> <tr> <td>製品CTまわり配管</td> <td>326.15</td> <td>0.000236</td> <td>208.3</td> <td>623.8</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>6.50E-03</td> </tr> <tr> <td>製品回収槽接続管</td> <td>280.15</td> <td>0.0002051</td> <td>28</td> <td>30.5</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>5.00E-06</td> </tr> <tr> <td>廃品回収槽接続管</td> <td>280.15</td> <td>0.0002051</td> <td>28</td> <td>30.5</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>5.00E-06</td> </tr> <tr> <td>一般バージCTまわり配管</td> <td>326.15</td> <td>0.000236</td> <td>54.9</td> <td>623.8</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>4.50E-04</td> </tr> <tr> <td>原料シリンダ槽接続管</td> <td>322.15</td> <td>0.0002333</td> <td>28</td> <td>497</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>9.20E-05</td> </tr> <tr> <td>製品シリンダ槽接続管</td> <td>280.15</td> <td>0.0002051</td> <td>28</td> <td>30.5</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>5.00E-06</td> </tr> </tbody> </table>		T	ρ	D ²	PUF ₆	1/Pt	1/L	G	発生槽接続配管	326.15	0.000236	28	623.8	760	10.2	1.20E-04	製品CTまわり配管	326.15	0.000236	208.3	623.8	760	10.2	6.50E-03	製品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06	廃品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06	一般バージCTまわり配管	326.15	0.000236	54.9	623.8	760	10.2	4.50E-04	原料シリンダ槽接続管	322.15	0.0002333	28	497	760	10.2	9.20E-05	製品シリンダ槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06	<p>②評価結果 ①の評価式により、ウラン濃縮工場内のUF₆処理設備及び均質・ブレンディング設備の各槽の接続管部からの漏えい速度を計算した結果は、下表のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>T</th> <th>ρD</th> <th>D</th> <th>PUF₆</th> <th>Pt</th> <th>L</th> <th>G</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発生槽接続配管</td> <td>326.15</td> <td>0.000236</td> <td>28</td> <td>623.8</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>1.20E-04</td> </tr> <tr> <td>製品CTまわり配管</td> <td>326.15</td> <td>0.000236</td> <td>208.3</td> <td>623.8</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>6.50E-03</td> </tr> <tr> <td>製品回収槽接続管</td> <td>280.15</td> <td>0.0002051</td> <td>28</td> <td>30.5</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>5.00E-06</td> </tr> <tr> <td>廃品回収槽接続管</td> <td>280.15</td> <td>0.0002051</td> <td>28</td> <td>30.5</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>5.00E-06</td> </tr> <tr> <td>一般バージCTまわり配管</td> <td>326.15</td> <td>0.000236</td> <td>54.9</td> <td>623.8</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>4.50E-04</td> </tr> <tr> <td>原料シリンダ槽接続管</td> <td>322.15</td> <td>0.0002333</td> <td>28</td> <td>497</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>9.20E-05</td> </tr> <tr> <td>製品シリンダ槽接続管</td> <td>280.15</td> <td>0.0002051</td> <td>28</td> <td>30.5</td> <td>760</td> <td>10.2</td> <td>5.00E-06</td> </tr> </tbody> </table>		T	ρ D	D	PUF ₆	Pt	L	G	発生槽接続配管	326.15	0.000236	28	623.8	760	10.2	1.20E-04	製品CTまわり配管	326.15	0.000236	208.3	623.8	760	10.2	6.50E-03	製品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06	廃品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06	一般バージCTまわり配管	326.15	0.000236	54.9	623.8	760	10.2	4.50E-04	原料シリンダ槽接続管	322.15	0.0002333	28	497	760	10.2	9.20E-05	製品シリンダ槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06
	T	ρ	D ²	PUF ₆	1/Pt	1/L	G																																																																																																																										
発生槽接続配管	326.15	0.000236	28	623.8	760	10.2	1.20E-04																																																																																																																										
製品CTまわり配管	326.15	0.000236	208.3	623.8	760	10.2	6.50E-03																																																																																																																										
製品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06																																																																																																																										
廃品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06																																																																																																																										
一般バージCTまわり配管	326.15	0.000236	54.9	623.8	760	10.2	4.50E-04																																																																																																																										
原料シリンダ槽接続管	322.15	0.0002333	28	497	760	10.2	9.20E-05																																																																																																																										
製品シリンダ槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06																																																																																																																										
	T	ρ D	D	PUF ₆	Pt	L	G																																																																																																																										
発生槽接続配管	326.15	0.000236	28	623.8	760	10.2	1.20E-04																																																																																																																										
製品CTまわり配管	326.15	0.000236	208.3	623.8	760	10.2	6.50E-03																																																																																																																										
製品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06																																																																																																																										
廃品回収槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06																																																																																																																										
一般バージCTまわり配管	326.15	0.000236	54.9	623.8	760	10.2	4.50E-04																																																																																																																										
原料シリンダ槽接続管	322.15	0.0002333	28	497	760	10.2	9.20E-05																																																																																																																										
製品シリンダ槽接続管	280.15	0.0002051	28	30.5	760	10.2	5.00E-06																																																																																																																										

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (30/37)

No. 51

添付-12 p.7 b. []の時の漏えい量 Wg2	
誤	正
<p>b. []の時の漏えい量 Wg2 []の状態では、液体から固体への相変化があるため、固体に相変化した UF₆ は昇華する。 UF₆ の液体からの蒸発及び固体からの昇華により奪われる熱量 Q3 = 内包 UF₆ の全量が液体から固体に相変化する際の熱量 Q4 $\rightarrow Wg2 \times ((\Delta Hv + \Delta Hg) / 2) = (Wu - Wg1) \times \Delta Hf$ $\rightarrow Wg2 = (Wu - Wg1) \times \Delta Hf / ((\Delta Hv + \Delta Hg) / 2)$ = [] = 1671kg UF₆</p>	<p>b. []の時の漏えい量 Wg2 []の状態では、液体から固体への相変化があるため、固体に相変化した UF₆ は昇華する。 UF₆ の液体からの蒸発及び固体からの昇華により奪われる熱量 Q3 = 内包 UF₆ の全量が液体から固体に相変化する際の熱量 Q4 $\rightarrow Wg2 \times ((\Delta Hv + \Delta Hg) / 2) = (Wu - Wg1) \times \Delta Hf$ $\rightarrow Wg2 = (Wu - Wg1) \times \Delta Hf / ((\Delta Hv + \Delta Hg) / 2)$ = [] = 1671kg UF₆</p>

No. 52

添付-12 p.9 二. b. []	
誤	正
<p>b. [] d t = [] = 2327s = 39min</p>	<p>b. [] d t = [] = 2327s = 39min</p>

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (31/37)

No. 53

添付-16 p.1 【損傷影響1】 ①事象進展	
誤	正
<p>【損傷影響1】 (1)電気・計装盤類の転倒による影響 ①事象進展 汎用設計である電機・計装盤類は、耐震性の高いUF₆機器より先に転倒することが想定される。UF₆機器に隣接する盤類の高さと離隔距離から、一部の盤類とUF₆機器（いずれもUF₆シリンダ類を収納する槽類）が接触する可能性がある。</p>	<p>【損傷影響1】 (1)電気・計装盤類の転倒による影響 ①事象進展 汎用設計である電気・計装盤類は、耐震性の高いUF₆機器より先に転倒することが想定される。UF₆機器に隣接する盤類の高さと離隔距離から、一部の盤類とUF₆機器（いずれもUF₆シリンダ類を収納する槽類）が接触する可能性がある。</p>

No. 54

添付-16 p.5 【臨界影響5】 ②影響評価	
誤	正
<p>②影響評価 水分を含んだ大気がコールドトラップ等のUF₆機器に流入して内圧が大気圧に至ったと仮定し、UF₆、不純ガスの量及び流入する水分量をもとにH/U-235を計算した結果、減速度の臨界安全値であるH/U-235=10以下であるため、臨界となることはない。(添付-14 参照)</p>	<p>②影響評価 水分を含んだ大気がコールドトラップ等のUF₆機器に流入して内圧が大気圧に至ったと仮定し、UF₆、不純ガスの量及び流入する水分量をもとにH/U-235を計算した結果、減速度の臨界安全値であるH/U-235=10以下であるため、臨界となることはない。(添付-15 参照)</p>

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (32/37)

No. 55

添付-16 別紙 図	
誤	正

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (33/37)

No. 56

添付-16 別紙 表

誤			正		
【損傷可能性】			【損傷可能性】		
損傷影響	想定事象	影響評価	損傷影響	想定事象	影響評価
1	(1)電気・計装盤類の転倒 (2)建屋からのコンクリート片等の落下 (3)配管等の落下	・槽類は、鋼製の槽であり、さらにシリング(槽内)で取り扱っているため、UF ₆ の漏えいに至る損傷はない。 ・大気圧以下の UF ₆ 取扱機器・配管は、損傷した場合でも拡散による微小漏えいであるため一般公衆への影響はない。 ・大気圧以上の配管は、鋼製の配管が ¹ 内に設置されており、損傷の可能性は低い。	1	(1)電気・計装盤類の転倒 (2)建屋からのコンクリート片等の落下 (3)配管等の落下	・槽類は、鋼製の槽であり、さらにシリング(槽内)で取り扱っているため、UF ₆ の漏えいに至る損傷はない。 ・大気圧以下の UF ₆ 取扱機器・配管は、損傷した場合でも拡散による微小漏えいであるため一般公衆への影響はない。 ・大気圧以上の配管は、鋼製の配管が ¹ 内に設置されており、損傷の可能性は低い。
2	転倒したシリング類の移動	・UF ₆ シリング類は、 <u>落下試験等に所要の強度を有しており</u> 、損傷することはない。 ・UF ₆ シリング類の接触により大気圧以上でウランを取扱う ¹ 小分け装置が損傷した場合でもウラン取扱量が 1kgU 程度であり一般公衆への影響はない。 ・UF ₆ シリング類との接触が考えられる他の機器は、大気圧以下の機器であり、損傷した場合でも拡散による微小漏えいであるため一般公衆への影響はない。	2	転倒したシリング類の移動	・UF ₆ シリング類は、 <u>落下試験等により所要の強度を有しており</u> 、損傷することはない。 ・UF ₆ シリング類の接触により大気圧以上でウランを取扱う ¹ 小分け装置が損傷した場合でもウラン取扱量が 1kgU 程度であり一般公衆への影響はない。 ・UF ₆ シリング類との接触が考えられる他の機器は、大気圧以下の機器であり、損傷した場合でも拡散による微小漏えいであるため一般公衆への影響はない。
3	天井走行クレーンの落下	・UF ₆ シリング類は、 <u>落下試験等に所要の強度を有しており</u> 、クレーンの落下により、損傷の可能性は低い。	3	天井走行クレーンの落下	・UF ₆ シリング類は、 <u>落下試験等により所要の強度を有しており</u> 、クレーンの落下により、損傷の可能性は低い。
4	隣接機器の火災	・UF ₆ 取扱機器で機械油等が燃焼した場合でも入熱による UF ₆ 液化膨張破裂に至ることはない。	4	隣接機器の火災	・UF ₆ 取扱機器で機械油等が燃焼した場合でも入熱による UF ₆ 液化膨張破裂に至ることはない。

No. 57

添付-18 p. 2 【冷凍機油の燃焼熱】

誤	正
* 1 : A.Tewarson,"Generation of Heat and Chemical Compounds in Fires",chap.3-4 in SFPE Handbook of Fire Protection <u>Engineering,2d</u> ed, by P.J.DiNenno,(Quincy,MA:National Fire Protection Association,June 1995)	* 1 : A.Tewarson,"Generation of Heat and Chemical Compounds in Fires",chap.3-4 in SFPE Handbook of Fire Protection <u>Engineering,2d</u> ed, by P.J.DiNenno,(Quincy,MA:National Fire Protection Association,June 1995)

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (34/37)

No. 58

添付-19 p.1 原野・他施設の火災による影響について	
誤	正
<p>六ヶ所ウラン濃縮工場のある事業所の西側には、廃棄物管理施設及びむつ小川原国家石油備蓄基地がある。事業所敷地に隣接し、当社再処理事業所の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターおよび再処理工場がある。また、事業所敷地内には、低レベル放射性廃棄物埋設センター及び濃縮・埋設事業所研究開発棟がある。</p>	<p>六ヶ所ウラン濃縮工場のある事業所の西側には、むつ小川原国家石油備蓄基地がある。事業所敷地に隣接し、当社再処理事業所の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターおよび再処理工場がある。また、事業所敷地内には、低レベル放射性廃棄物埋設センター及び濃縮・埋設事業所研究開発棟がある。</p>

No. 59

添付-19 p.1 1. むつ小川原国家石油備蓄基地の火災影響について	
誤	正
<p>1. むつ小川原国家石油備蓄基準の火災影響について</p>	<p>1. むつ小川原国家石油備蓄基地の火災影響について</p>

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (35/37)

No. 60

添付-20 p. 5 表 1. 全交流電源喪失時の濃縮工程の挙動と臨界安全性													
誤	正												
<p>表 1. 全交流電源喪失時の濃縮工程の挙動と臨界安全性</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系 統</th> <th>電源喪失の挙動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【発生系】</td> <td>・発生槽からカスケードへ続く配管の弁の全てが FC 動作とならなかった場合、UF₆ の潜熱が無くなるまで発生槽からカスケードへの UF₆ 供給が継続するが、最終的には発生槽からカスケードまでが平衡蒸気圧 (常温 20℃ ; 80Torr) の UF₆ で満たされるのみであり、系内は負圧の状態では UF₆ は閉じ込められる。また、遠心機の駆動電源が停止しているため、UF₆ の濃縮は起きず、原料 UF₆ の濃度は 0.7wt% であるため、臨界は起きない。</td> </tr> <tr> <td>【製品系】</td> <td>・カスケードから製品コールドトラップへ続く配管の弁が全て FC 動</td> </tr> </tbody> </table>	系 統	電源喪失の挙動	【発生系】	・発生槽からカスケードへ続く配管の弁の全てが FC 動作とならなかった場合、UF ₆ の潜熱が無くなるまで発生槽からカスケードへの UF ₆ 供給が継続するが、最終的には発生槽からカスケードまでが平衡蒸気圧 (常温 20℃ ; 80Torr) の UF ₆ で満たされるのみであり、系内は負圧の状態では UF ₆ は閉じ込められる。また、遠心機の駆動電源が停止しているため、UF ₆ の濃縮は起きず、原料 UF ₆ の濃度は 0.7wt% であるため、臨界は起きない。	【製品系】	・カスケードから製品コールドトラップへ続く配管の弁が全て FC 動	<p>表 1. 全交流電源喪失時の濃縮工程の挙動と臨界安全性</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>系 統</th> <th>電源喪失時の挙動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【発生系】</td> <td>・発生槽からカスケードへ続く配管の弁の全てが FC 動作とならなかった場合、UF₆ の潜熱が無くなるまで発生槽からカスケードへの UF₆ 供給が継続するが、最終的には発生槽からカスケードまでが平衡蒸気圧 (常温 20℃ ; 80Torr) の UF₆ で満たされるのみであり、系内は負圧の状態では UF₆ は閉じ込められる。また、遠心機の駆動電源が停止しているため、UF₆ の濃縮は起きず、原料 UF₆ の濃度は 0.7wt% であるため、臨界は起きない。</td> </tr> <tr> <td>【製品系】</td> <td>・カスケードから製品コールドトラップへ続く配管の弁が全て FC 動</td> </tr> </tbody> </table>	系 統	電源喪失時の挙動	【発生系】	・発生槽からカスケードへ続く配管の弁の全てが FC 動作とならなかった場合、UF ₆ の潜熱が無くなるまで発生槽からカスケードへの UF ₆ 供給が継続するが、最終的には発生槽からカスケードまでが平衡蒸気圧 (常温 20℃ ; 80Torr) の UF ₆ で満たされるのみであり、系内は負圧の状態では UF ₆ は閉じ込められる。また、遠心機の駆動電源が停止しているため、UF ₆ の濃縮は起きず、原料 UF ₆ の濃度は 0.7wt% であるため、臨界は起きない。	【製品系】	・カスケードから製品コールドトラップへ続く配管の弁が全て FC 動
系 統	電源喪失の挙動												
【発生系】	・発生槽からカスケードへ続く配管の弁の全てが FC 動作とならなかった場合、UF ₆ の潜熱が無くなるまで発生槽からカスケードへの UF ₆ 供給が継続するが、最終的には発生槽からカスケードまでが平衡蒸気圧 (常温 20℃ ; 80Torr) の UF ₆ で満たされるのみであり、系内は負圧の状態では UF ₆ は閉じ込められる。また、遠心機の駆動電源が停止しているため、UF ₆ の濃縮は起きず、原料 UF ₆ の濃度は 0.7wt% であるため、臨界は起きない。												
【製品系】	・カスケードから製品コールドトラップへ続く配管の弁が全て FC 動												
系 統	電源喪失時の挙動												
【発生系】	・発生槽からカスケードへ続く配管の弁の全てが FC 動作とならなかった場合、UF ₆ の潜熱が無くなるまで発生槽からカスケードへの UF ₆ 供給が継続するが、最終的には発生槽からカスケードまでが平衡蒸気圧 (常温 20℃ ; 80Torr) の UF ₆ で満たされるのみであり、系内は負圧の状態では UF ₆ は閉じ込められる。また、遠心機の駆動電源が停止しているため、UF ₆ の濃縮は起きず、原料 UF ₆ の濃度は 0.7wt% であるため、臨界は起きない。												
【製品系】	・カスケードから製品コールドトラップへ続く配管の弁が全て FC 動												

No. 61

添付-20 p. 6 2. 計測制御設備の機能喪失時の影響	
誤	正
<p>なお、計装制御設備は、システムの導入時期によって仕様は異なるが、安全性に係わる基本的機能に変更はない。また、最初に設置した RE-1 の計測制御システムは、既に設置から 20 年以上が経過しているため、新型遠心機の導入に合わせて新システムに更新していく計画であり、RE-1(600tSWU/y)の換気空調設備の計測制御系等は、更新作業を終えている</p>	<p>なお、計測制御設備は、システムの導入時期によって仕様は異なるが、安全性に係わる基本的機能に変更はない。また、最初に設置した RE-1 の計測制御システムは、既に設置から 20 年以上が経過しているため、新型遠心機の導入に合わせて新システムに更新していく計画であり、RE-1(600tSWU/y)の換気空調設備の計測制御系等は、更新作業を終えている</p>

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (36/37)

No. 62

添付-20 別紙	
誤	正

No. 63

添付-21 p.6 4. 影響緩和策（アクシデントマネジメント策）の有効性	
誤	正
<p>4. 影響緩和策（アクシデントマネジメント策）の有効性 前述の体制等のもと、UF₆の漏えいを想定し、セルフエアセット・化学防護服の装着、二酸化炭素消火器の放出、漏えい箇所閉止等の模擬訓練を行っており、事象の発生から1時間半程度で漏えい停止までの処置を行っている。</p>	<p>4. 影響緩和策（アクシデントマネジメント策）の有効性 前述の体制等のもと、UF₆の漏えいを想定し、エアラインスーツ・化学防護服の装着、二酸化炭素消火器の放出、漏えい箇所閉止等の模擬訓練を行っており、事象の発生から1時間半程度で漏えい停止までの処置を行っている。</p>

「ウラン濃縮工場の安全性に関する総合的評価に係る報告書」に係る正誤表 (37/37)

No. 64

添付-21 p.7 表6. 最近の非常時訓練実績

誤				正			
表6. 最近の非常時訓練実績				表6. 最近の非常時訓練実績			
年度	実施日	想定事象	設備対策(模擬)活動	年度	実施日	想定事象	設備対策(模擬)活動
2004	2004/12/20	六ヶ所村内において震度 6 強の地震発生。地震の影響で均質室において中間製品容器運搬中に吊具の破損により中間製品容器が落下・破損し UF ₆ が漏えい。	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う	2004	2004/12/20	六ヶ所村内において震度 6 強の地震発生。地震の影響で均質室において中間製品容器運搬中に吊具の破損により中間製品容器が落下・破損し UF ₆ が漏えい。	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う
2005	2005/12/13	1号均質室内においてUF ₆ が漏えいし、施設外へも放出	・均質槽緊急遮断弁強制閉操作 ・局所排気装置への強制切替操作 ・局所排気系フィルタユニット交換	2005	2005/12/13	1号均質室内においてUF ₆ が漏えいし、施設外へも放出	・均質槽緊急遮断弁強制閉操作 ・局所排気装置への強制切替操作 ・局所排気系フィルタユニット交換
2006	2006/06/28	1号均質室において中間製品容器の移動作業中に吊具がクレーンから外れ、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う ・均質室系排気フィルタ交換	2006	2006/06/28	1号均質室において中間製品容器の移動作業中に吊具がクレーンから外れ、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う ・均質室系排気フィルタ交換
2007	2007/06/28	1号均質室において中間製品容器の搬送作業中に搬送台車がレールから脱輪し、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う ・均質室系排気フィルタ交換	2007	2007/06/28	1号均質室において中間製品容器の搬送作業中に搬送台車がレールから脱輪し、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う ・均質室系排気フィルタ交換
2008	2008/06/26	搬出入室において原料シリンダの受入れ作業中にクレーンのワイヤが切れ、シリンダが落下。シリンダ破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・原料シリンダ破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う	2008	2008/06/26	搬出入室において原料シリンダの受入れ作業中にクレーンのワイヤが切れ、シリンダが落下。シリンダ破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・原料シリンダ破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う
2009	2009/06/19	1号均質室において中間製品容器の移動作業中にクレーンの巻上げ部分が故障し、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う ・均質室系排気フィルタ交換	2009	2009/06/19	1号均質室において中間製品容器の移動作業中にクレーンの巻上げ部分が故障し、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う ・均質室系排気フィルタ交換
2010	2010/06/24	1号均質室において中間製品容器の搬送作業中に搬送台車がレールから脱輪し、中間製品容器が落下。中間製品容器破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・中間製品容器破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う	2010	2010/06/24	搬出入室において原料シリンダの受入れ作業中にクレーンのワイヤが切れ、シリンダが落下。シリンダ破損部よりUF ₆ が漏えい	・CO ₂ 消火器にてUF ₆ を固化 ・原料シリンダ破損部及び近傍に漏えいしたUF ₆ をビニルシートで覆う
2011	2011/04/26	六ヶ所村内において震度 6 弱の地震発生。外部電源喪失及び非常用ディーゼル発電機も機能喪失。	・現場状況確認、設備監視強化 ・周辺環境モニタリング	2011	2011/04/26	六ヶ所村内において震度 6 弱の地震発生。外部電源喪失及び非常用ディーゼル発電機も機能喪失。	・現場状況確認、設備監視強化 ・周辺環境モニタリング